

むたい俊介ニュース

第8号
発行元

自由民主党第二選挙区支部
長野県松本市白板 2-3-30
大永第3ビル

Tel : 0263-33-0518 Fax : 0263-33-0519
twitter: @mutaishunsuke
www.mutai-shunsuke.jp



皆様お元気ですか？

3. 11の東日本大震災で世の中が変わりました。私も元消防庁防災課長の本能が目覚め、地域の、日本の、危機管理の強化について自ら実践し、企画立案を始めています。様々な場での発信に努めます。

活動報告

3月13日 早朝からラジオで震災情報を得る。車で移動中も同様。午前中、松本市内の宗教団体の月例際に顔を出す。ここでも話題は大震災。その足で県議の事務所開きに顔を出す。「普通に生活できている幸せを噛みしめる必要がある。その立場に立って被災地に全面支援を」と挨拶。県議は、「こども手当などのバラマキ支給を停止し、その分を被災地支援に回すべき」と挨拶。大賛成。安曇野市内の支援者を訪問の後、安曇野市三郷にて支援者とのミニ集会。「震災による政治休戦で解散総選挙は遠のいた。今は被災者救出、復興支援の在り方に全力を傾注する時。TPPの議論も遠のいた」と述べる。夕方、ustreamを活用したインターネット定時放送の打ち合わせ。試験放映「大震災の募金活動～松本の高校生に聞く」を行う。偶々スタジオ前の通りで震災募金を行っていた地元女子高生諸君をスタジオに招き、被災地の皆さまに応援のメッセージを発する。

4月9日 午前中から茨城県内の被災状況を調査。茨城県庁と大洗町を訪問。水戸市内では橋本知事、副知事、危機管理監に災害対応の状況を伺う。茨城県庁は分野毎の対応を時系列で整理した資料を作成。JCO事故を経験した茨城県の対応は練れていてスマート。食物を通じた放射線の蓄積と日常的に関わりのある放射線量との分かりやすい比較の広報を通じ、放射線の安全認識に関する県民理解を得ようとする姿勢も勉強になる。大洗町では小谷町長から地震・津波災害の対応を聞く。大洗海岸では地震と津波の爪痕を実見。新聞にはあまり出ないが大洗も津波被害。JCO 臨界事故の後、防災無線に2日間持続する蓄電池を搭載。地震による停電にも拘らず防災無線が2日間機能したことが住民の避難誘導に大きく役立ったとの町長さんの感想。JCO事故後の対策が地震・津波対策に活かされた。

5月13日 朝から遠野市稲荷下の物資支援センターで被災者支援活動。大学のゼミ生14人がキビキビとした働きを行い、被災者への物資提供がスムーズに進んでいる印象。センターには各地からのボランティアが集まり、それを静岡県庁の派遣チームが遠野市関係者と調整しているという図式。直接の被災地ではない遠野市が被災地支援バックヤード基地として活躍。他方、遠野市社会福祉センター内に事務局を持つ「遠野まごころネット」が被災地支援ボランティアネットワークの中核となり、ボランティア活動全体を統括。全国のボランティア志望者をこの組織が捌く。創意工夫による活動が多様に広がる。例えば「足湯隊」という取り組み。被災者の方に足湯サービスを行い、その際に手などを揉み解し、その間の会話の中で癒しを行うというもの。私も実験台になる。ボランティアの現場に入ると何かしら篤い共同体的雰囲気を感じる。ドイツと米国からのボランティアの方とも遭遇。ドイツ人は消防隊とのこと。今年は日独外交関係樹立150周年であることをPR。夕方今回の訪問の反省会。思い切ってきてよかった、また来たい、他にもやれることがありそう、もっと効率的に動けたかもしれない、などの感想。被災者を助けるつもりで来たところ、逆に元気をもらえたとの異口同音の感想。非常に貴重な経験を得ることができた3泊4日のボランティア体験となった。多くの若者にボランティア参加を呼び掛けて行く使命を各人が自覚。

発売中の著書「高めよ！防災力」ぎょうせい

総務省防災課長時代の知見に、近年の新たな潮流について解説を加え2011年2月と5月に改訂版を出版致しました。是非ご覧ください。

ご購入はこちらのHPでも可能です <http://shop.gyousei.jp/>



写真ギャラリー



wwoofの取り組みを伺う
(安曇野市内)



千鹿頭神社の御柱祭にて
(松本市内)



ユーストリームで高校生と対談
(松本市内)



ブドウ農家のジベレリン処理を見学
(松本市内)



義援金を手に仲間と
(安曇野市内)



遠野市でボランティア
(岩手県内)

私たちが応援しています！



唐沢俊二郎元代議士と



村井仁長野県知事(当時)と